

第 1 回田辺市高等教育機関設置等調査検討会議 議事録

日 時	令和 7 年 11 月 13 日（木）午後 7 時 00 分から午後 9 時 00 分まで
場 所	田辺市役所 6 階 第 1 委員会室
出席者	10 名
欠席者	1 名
議 事	1 開会 2 委員委嘱 3 副市長挨拶 4 委員紹介 5 検討会議設置の経過等 6 座長の選出 7 議事 （１）高等教育に関する動向等について （２）田辺市高等教育機関設置可能性調査検証結果報告書について （３）その他 8 閉会
1 開会	
2 委員委嘱	
3 副市長挨拶	
副市長	皆様こんばんは。本日は誠にありがとうございます。第 1 回田辺市高等教育機関設置等調査検討会議の開催に当たり、御挨拶を申し上げます。 まず、皆様におかれましては、多忙な中にも関わりませず、委員就任をお引受け頂きましたことに心から感謝を申し上げます。 さて、当市では、令和 6 年度の市庁舎移転に当たり、旧本庁舎跡地の利活用に係る方向性の整理・検討が必要となる中、これまでの取組を踏まえながら、旧本庁舎跡地及び扇ヶ浜を核として、まちのにぎわい創出や地域経済の活性化に向けた未来につながるまちづくりの構想として、田辺 ONE 未来デザイン構想を令和 6 年 3 月に策定し、この構想に基づいて様々な取組を行っているところです。 こうした中、令和 6 年 8 月 29 日に、一般財団法人立初創成大学設立準備財団様から田辺 ONE 未来デザイン構想に係る具体的な提案を頂きました。旧本庁舎跡地等を活用した文理融合型の公立大学設立の提案でございます。 当市を含む紀南周辺地域は、通学できる高等教育機関が限られており、高等教育の空白地帯となっております。仮に財団が提案する公立大学の設立が実現すれば、地元高校生の

	進学を選択肢が広がり、地元定着の可能性も高まります。加えて、域外からの若者の流入等により、田辺ONE未来デザイン構想に掲げます、まちのにぎわい創出や地域経済の活性化に大きく寄与するものと考えております。また、当市を含む周辺自治体全体の将来にも少なからず影響を及ぼす可能性があることから、真摯に検討を行うべき提案であると考えて、庁内関係部課長を中心に検証を行い、本年3月に、田辺市高等教育機関設置可能性調査検証結果報告書を取りまとめたところでございます。 この報告書は市ホームページ上でも公表をいたしておりますが、検証の結果、提案された大学構想の実現可能性は十分にあるものの、今回の検証にとどまらず、専門的見地からさらなる検証が必要であるとの結論に至ったことから、本会議を設置させていただいたところです。 本会議は本日を第1回として、令和8年3月まで開催することとしておりますが、委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から、忌憚のない率直な意見をぜひともいただきたくお願いを申し上げます。委員の皆様には、大変な御負担をおかけすることとなりますが、当市の今後を考える機会といたしましても、何とぞよろしくお願いを申し上げます。本日は誠にありがとうございます。
4 委員紹介	
5 検討会議設置の経過等	
6 座長の選出	
7 議事 (1) 高等教育に関する動向等について (2) 田辺市高等教育機関設置可能性調査検証結果報告書について (3) その他	
司 会	それでは続きまして、次第の7番目、議事に移りたいと思います。ここからの進行につきましては、設置要綱第5条第1項の規定に基づき、座長が議長となりますので、以降の進行をお願いいたします。それでは、座長、よろしくお願いいたします。
座 長	それでは、議事の1点目、高等教育に関する動向等について、事務局より説明をお願いします。
事務局	(資料4に基づき、高等教育に関する動向等について説明。)
A委員	(資料3ページについて) ここで質問があるのですが、この推計のグラフを見てみると、2040年以降、基本的にフラットになっていますが、子供がどんどん減っているのにフラットなグラフを示してあたかもこれが正しいかのような。ここはミスリーディングではないでしょうか。

事務局	こちらは事務局というより文科省に対するということになるかと思いますが、2040 年度以降、横置き的前提で作成している資料というふうに理解しています。恐らく減るかもしれないが、ここ以降は横置きの推計になってるというのが前提となっています。
A 委員	その前提自体がおかしいと思いませんか。
事務局	委員のおっしゃることも分かりますが、国は 2040 年問題というもの取り上げており、それに向け高等教育の受けた方など専門的な方を増やしていくとされております。 2040 年以降は、国の目標であるというふうに考えていただければと思います。
A 委員	理想論はいいが、急激な右肩下がりのグラフになるのが、おそらく現実ではないかと思っています。だから、もしこれを前提に何かを議論するのであれば、変なことになると思うということを言いたいです。
事務局	(引き続き、資料 4 に基づき、高等教育に関する動向等について説明。)
座 長	ご説明ありがとうございます。それでは、ご説明頂きました高等教育の動向について、委員の皆様から忌憚のない、ご意見、ご質問等頂きたいと思いますがいかがでしょう。
A 委員	冒頭言いかけましたが、言いたいポイントは、日本の人口減少及び少子高齢化は、この紀南地方では、全国よりもはるかに速いスピードで進行するのは間違いないと思います。 具体的に言うと、私が田辺第一小学校に通っていた頃は、当時 1 クラス 45 人。5 クラスあって 1 学年 220～230 人くらい生徒がいましたが、今の 1 年生は 9 人です。それが実態です。 そういう中で、大学設置をどうするかという議論をするときに、いかに子供の数が、これから 10 年 20 年経つと減るかということ、当然、先ほどの資料にあるような水平ではなく、極めて右肩下がりの状況の中で、それでも成り立つのかどうかということを議論しなければなりません。先ほどのグラフはミスリーディングではないかということを言いたかったです。
座 長	ありがとうございます。 補足をしていただきましたが、説明の中にもありました人口減少率が、ほかの県よりも高く、早いということ、また、現実に小学校に行って子供の数を見ておられるということもあります。 子供は増えないし、大学へ進学する人は、市内県内から減ることはあっても増えることはない。通常、このように解釈できると思います。それを前提にしないと、こういう議論はできないと思います。 いろんなお立場の方に集まっていただきまして、皆さんの方から積極的にご発言いただける方はおられますでしょうか。そうでなければ、座長の権限でご指名させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。B 委員に意見をお願いしたいと思っています。

B委員	資料の6ページ、公立大学の概況というところで、私立が定員割れをしている中で、公立大学が定員割れをせず、さらに、入学率も83.7%と高い。その要因を教えてくださいと思います。
座長	事務局お願いします。
事務局	推論が入ってしまう回答にはなりますが、まず資料の4ページ、国立大学、公立大学、私立大学の分布を見ると、私立大学は大学数が多いという点、また、公立大学は各地域にしっかり根差した形で置かれているケースが多いということや学費が安いという点がありますので、各地域にいらっしゃる方が、地域の活性化や地域で役立つ人材になりたいということで、公立大学を志して進学されるというケースが多いのではないかと考えます。
B委員	もう少し詳しく知りたいところです。 大学を設置するかしないかを考える際、学生がきちんと集まるというのが、大前提だと思います。公立大学が私立大学に比べて（定員充足の面で）非常に成績が良い。私立大学が、留学生などをたくさん入れて何とかやっているところ、公立大学が上手くいっている理由を、もう少し知れたらと思います。
座長	そのことについて、見通しをお持ちではないですか。 C委員いかがでしょうか。
C委員	これは、全国の公立大学でそういう傾向を示しており、首都圏あるいは関西圏に出ていく学生さんを除き、通常、地域に残りたい方は、まず、第一志望として地方の国立大学を目指します。次のステップとして公立大学を選びます。その次のステップとして、地方にある私立大学を選びます。高校訪問している高校の先生方、進路の先生方、そういう選択肢をされる学生さんが非常に多いということです。 その要因は分かりませんが、学費が安い、あるいは知名度が高い、様々な要因が絡んでいるので、客観的な根拠をもとにご説明はできませんが、一般的にはそう言われており、全国の公立大学を見ても、例えば私立大学から公立大学になると、今まで定員を割っていたのが、応募が殺到するというのが実態です。公立大学になると受験者数が増えるというデータは、文科省のホームページで見ることができます。
座長	ありがとうございます。 事務局でも公立大学が新しくできた事例を幾つかお持ちだったと思いますが、私立大学時代と公立化した時との受験生や充足率、そういったデータをもしお持ちでしたらと思いますがいかがですか。
事務局	資料は無いですが、公立大学になると、地域の若者だけではなく、ほかのエリアからもやってくるというところがあり、それが志願者数の増加を押し上げていくというところは数値として見たことがあります。

座 長	ありがとうございます。 D委員いかがでしょうか。生徒さんからみて、公立大学というのは魅力あるように映るものでしょうか。
D委員	本校の現状を見ると、入学生の 80%から 90%は、当初、国公立大学を志望して、できれば行きたいという意思を持って入学してきています。なぜ、国公立大学にそれだけの人気があるのかということまでは分析できてはいないですが、一つはやはり、学費の面は大きいとは思いますが。ただ、人気は確かにすごくあり、先ほどから話があるように、私立大学が公立化したときに、すごく倍率が上がるというのは、いろんなところのデータで出ていますし、実際、本校の生徒なんかを見ていても、最近、公立化したところに行きたいという生徒もいます。年々、その大学の知名度も上がってきており、少しずつですが、その大学の進学希望者も増加している気がします。
座 長	ありがとうございます。 いろんな角度から公立大学に学生が集められるかどうかということについて、ご意見を頂戴しているのですが、こんな考え方もあるという委員の皆さん、いらっしゃいませんか。親御さんの立場とかがいでしょうか。
E委員	今まで、出された意見とほぼ同じですが、やはり親御さんの立場からすると、学費の面などで国立大学しか認められないご家庭も一定程度いるのではないかと思います。そういうご家庭がどう考えるかという、やはり、学費の面などで、公立大学というのは、どちらかというと私立大学というより国立大学寄りの大学と考えられます。そういう意味では、国立の次に選択肢として考えられるというところが大きいのではないかと思います。 私に関わってる大学でも、前期として国立大学を受け、国立大学が運悪く駄目だった場合には、中期、後期で公立大学を受験し、そこで受ければそちらに 100%進学するというご家庭が多いです。 あともう一つ、同じ私に関わってる大学は、資格を取得することができるという特徴があります。その大学は、教員免許が、基本的に全ての学部学科で取れるということなので、それも大きな魅力になっています。公立大学というのは、そういう資格を目指せるカリキュラムが比較的多いのではないかと考えます。これは実際、具体的な資料があるわけではないですが、感覚的にはそういう印象を受けています。
座 長	大変参考になる意見かと思います。大学へ進学する側の保護者という角度から F 委員はいかがでしょう。
F委員	私も娘 2 人を大学に通わせています。親の立場からすれば、国公立大学に行ってくれば嬉しかったのですが、私立大学に通っています。女子大学に行っているのですが、少子化で共学にするという発表が突然あり、それだけ大学の経営というか、運営は難しいのかなというふうに感じています。 公立大学をこの地域につくって、その子たちが本当にこの地域に定住してくれるのかなという考えもあります。

座 長	これからの会議では、そういうことがアンケート等に出てくるとと思いますが、今、ものすごく子供が減ってきています。私は、スポーツの方で子供たちに携わっているのですが、10 年程前に比べたら、参加者が半分ぐらいになってきています。すごく、一気に減ってきていると感じています。 ありがとうございます。 この公立大学の設置は、人口減少に歯止めをかける一つの要素となりうるのかどうかというの、実は大きなテーマかと思うのですが、いかがでしょう。公立大学が成功している例が多いというのは、もしかしたら明るい情報かもしれません。 ただ、急激に子供が減っている。多くの市民の皆さんも、おそらく人口減少がすごく急激だということに対する危機感を持っておられると思います。それについて、他にどんな施策があるかということも関連するのかなと思いますがいかがでしょうか。 少し角度を変えた質問やご意見があると、大変ありがたいと思いますが、既に発言された方も、もちろん結構ですのでいかがでしょうか。 G 委員いかがでしょうか。
G 委員	高校 3 年生と、高校 1 年生の子どもがおり、上の子は地元で就職が決まっていますが、下の子は、大学か専門学校へ行きたいという目標を立てています。 親からすれば、国立大学に行ってもらえれば、家計的にありがたいというのはありますが、子どもたちは、都会へ行きたいという夢というか、そういうのがすごく聞こえてきます。私は、すごく地元愛がありますので、寂しいというところではあるのですが、もし、こちらの方に大学ができたとすれば、紀南地方は、すごくいいところなので、もちろん地元の子どもたちが残ってくれば、すごく嬉しいですが、県外の方からも、来てくれるということが期待できるのではないかと正直少し思います。
座 長	ありがとうございます。 関西大学に勤めていますと、近畿の様々の県から、たくさんの学生が来ていただけます。田辺からも来ていただいております、私が勤めている学部では卒業後に地元へ帰ってもらえないか。公務員などいろいろな道を含めて。地域連携に特化した学部なので、そのように学生とも勉強しており、帰ってくれる生徒がいたらやはり嬉しいです。大きな企業に就職が決まっていたが、最後はそれを断って町役場入った学生が実際にいます。それは、いいお話だと思いました。 それからもうお一方、H 委員、御発言頂けますでしょうか。
H 委員	かつてマンモス校だった田辺第一小学校の入学児童が、1 桁か、2 桁入ったぐらい（まで減少した）という話を聞いて驚いたことがあり、これも南海トラフの影響ではないかと考えたり、いろいろ思ったりしています。 子供の数が減ってきているのも実際事実で、地域内に複数あった子供会も参加人数と子供の数が減少していることから、3 年程前に一つに統合しました。それで、お父さんお母さん方が何とか活動を継続している状況です。 公立大学が田辺にでき、和歌山以外のところにも、近畿圏含めて、田辺の公立大学は魅

	力いっぱいだということが広まっていけば、どんどん（学生が）来るのではないかと考えています。 先日テレビの番組の中で、滋賀大学だったと思いますが、市内の空きビルを学生寮に変更し、そこに滋賀大学の学生たちを住まわせて、その地域の自治活動にこの大学生の力を発揮させて地域とも交流し、活性化にもつなげていくという番組があり、こういう取組が（田辺市でも）できたら良いと思いました。 ただ、そこへ行くまで、田辺の環境は確かに抜群なところで、この資料を読ませていただいても、自分自身も思います。自分自身は、関東の大学に行きました。やはり都会に行きたいという思いがあったため、田舎から離れて東京で生活してみましたが、こんなところ人間が住むところではないと感じ、また、和歌山に帰ってきました。 ただその時に、和歌山で生活するには、どういう職を選んだらよいのかと考えたら、私の同級生 360 人のうち 1 割強が教員になっており、教員や地方公務員である市役所の職員など、そういう職に就いてる人が多かったと思います。 そういった中で、やはり環境が良いだけでは、なかなか地元に残らないというのがあるのではないかと思います。それと、この大学を出た子どもたちを受け入れる企業がなければ駄目だと思います。また、今の自治会組織を見ても、自分さえよければ良いという人が随分多く、人のために何かを極力したくない、そういう人たちが増えてきていると感じます。そういったところが全て上手くいかないと、公立大学が軌道に乗り出し、田辺に人が入ってきて、その人たちが田辺に住んでみようか、田辺を拠点に和歌山紀南を探索してみようかなど、そのようなところに繋がっていかないのではないかと思います。 公立大学ができれば、私立より（学費が）安いので、家庭の経済事情を考えれば、やはりそのほうが魅力的ですが、その軌道に乗るまでが大変かと思います。
座 長	ご意見ありがとうございます。 まちづくり、まちの将来と大きく絡んでいくだろうということは、特に地元の市民の皆さん共通の関心かと思いました。 もう一つ議題、高等教育機関設置可能性調査検証結果報告書について、事務局からご説明お願いいたします。
事務局	（資料 5 に基づき、検証結果報告書の内容について説明。）
A 委員	大学のネーミングですが、まだ決まったわけではないと思いますが、「立初」という単語は、この大学構想が出るまで聞いたことがなく、おそらく多くの方も同じではないでしょうか。あまり馴染みのある名前ではないので、一考を要すると思います。 先ほど座長も言われたように、人口減少に少しでも歯止めがかかることに繋がるのではないかという話がありましたが、学生数 144 名、おそらく教員を含めても 170 名程度ですので、その単位では焼け石に水であり、人口減少に対してはほとんど寄与しないと思います。ただし、まちなかに若い人が集まること自体は、まちが元気になるということなので、すばらしいことだと思います。 また、日本の人口が減り、子供が減っている中で、学生を永続的に、たくさん集めるためには、海外留学生を受け入れるという視点も必要ではないかと思います。定員が 144 名

	のうち、私の感覚から言えば、半分ぐらいが留学生でもいいのではないかと思います。そういった観点では、報告書に関して、何か視点が欠けているような気がします。 当然、子供が減っていく中で、その前の資料にも書かれていましたが、尖った大学でなければ生徒は来てくれないということは、皆さん一致しているかと思います。提案いただいている立初創成大学の教育方針、理念が本当に尖ったということに値するのかなということをご皆さんで、今後、検討会議で議論されるのが1番だと思います。 また、ここに集まっている委員の方々が大学に行くわけではないので、地元の生徒さんが行きたいと思える大学なのかどうなのかということを知ることが、1番大事かと思います。高校2年生に対してアンケートを実施したようですが、もう少し範囲を広げて、中学生も含めてアンケートを行うほうが、将来の大学生という意味では、彼らの意見が1番大事かなという気がします。
座 長	ありがとうございます。率直な印象としては、どのように感じていますか。
A委員	教育方針や理念にいま一つ、まだパンチに欠けているかなというのが、私の正直な感想です。
座 長	大変参考になりました。我々が煽ってパンチを利かすというのも、ありなのかもしれません。このことについては、やはり大学に携わっている立場で、この構想について、どういう印象をお持ちなのかお聞きしたいのですが、C委員いかがですか。
C委員	先ほどの資料4の9ページに書いているように、新設大学での強み・特色が必要ということが言われています。この財団から提案があったこのカリキュラム内容を見ますと、強みや特色について、他の大学でも同じようなことを言っており、目新しい感じはしません。 つまり、新設の大学、しかも小さな大学をつくるということは、要はスタートアップ企業を立ち上げるのと全く同じです。そのときに戦略が必要になるわけで、戦略を分析するときに、当然、競合他社と何が違うのかということ徹底的に詰めなければ、何が差別化要因なのかわかりません。 これだけ見ますと、非常にわかりにくいカリキュラムになっていて、果たしてほかの大学とどこが違うというところが見えてきません。大学をつくる場合に、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを作っていくわけですが、この辺の理念や、1番ベーシックになるところを見直さないと、このままではどうか、という感じがするのが1点目です。 2点目は、検証結果報告書全体を通じてですが、今の段階ではやむを得ないところですが、非常に希望的観測が相当入り込んでいるので、そこをこの検討会議で検証していく必要があると思います。 例えば、財源のところは50ページです。まだ、非常にラフな見通しなので、初期費用のところは精査中だと思いますが、財源の大学・高専機能強化支援事業助成金については、ほかの大学も採択に向けて取り組んでいるため、これらとの競争の関係上で採択されるのかという問題があります。 それから、地方債を出すということは、将来世代にツケを回すことですから、これをど

	う考えるのかということもあります。 企業版ふるさと納税寄附金その他寄附金 10 億円について、これは三条市立大学程度を想定と書かれていますが、ご承知のように、三条市は食器、あるいはプラスチック加工、それに類する物流、様々な企業が非常に集積している地域で、そこの企業の方々の相当なご協力と、それからある企業の方からの相当な額の寄附を頂いて成り立っているのです。田辺市で本当に該当する話なのかどうか。こういうことも、細かく議論していかないといけないと思います。 それから運営費について、52 ページに書いていますが、これは運営交付金ではなく、正確には運営費交付金という言い方をしますが、その財源として令和 6 年度公立大学で地方交付税の措置額があります。 ただし、この学部のカリキュラムが、本当に理科系に該当するのか。文理融合というだけでは理科系に該当しません。なぜ、理学系・医学系が高いかというのは、様々な医療機器や実験機器等々の整備が必要になるからです。このカリキュラムが、本当に理科系でいけるのかどうかの最終確認が必要であり、社会科学系に該当すれば、全然違う話になります。 この報告書全体を通じて、この検討会議で詰めなければならないところが、多々あると思っています。 さらに、大学を設置することによる地域貢献に対する効果について、この学部が何の地域貢献ができるのか。地域に対する人材の輩出は一定程度できるかもしれませんが、それ以外に、企業と連携しながら何を共同研究するのか。どのような新しいイノベーションを地域に生み出すのか。また、大学発ベンチャーと書いてありますが、私はベンチャーキャピタルの役員もやっていますが、このカリキュラム内容では大学発ベンチャーはできません。 だから、こういうことを細かく詰めていかないと、非常に理想論が強く入っているということを大前提として理解をしておかないといけないのではないかと、というのが、私の印象です。すいません。きつめな言い方をしておりますが、この検討会議で議論すべき点は多々あるというふうに私は考えております。
座 長	ありがとうございます。大学に携わる立場からいろんな指摘を頂きました。今指摘頂いた内容も含めて、いかがでしょう。意見等、ございませんか。報告書の質問でも結構です。
B 委員	人口減少というのは、他の委員が言われたとおり、止められない現実だと思います。そのことを、本当にきちんと受け止めないと駄目だと思います。減少していくのは大前提ですが、そのような中で、この田辺という地域が、何とか維持存続していければいいかと、かすかな期待を持たせてくれたのがこの大学構想です。いろいろ考えたところで、何十年か後には、このまちはなくなるのではないかと、そのような不安を覚えます。 ただ、今までの大学のイメージを変えないことには、地域に貢献できる大学にはならないと思います。どのようにイメージを変えるのかと申しますと、もちろん高等教育機関ではありますが、公立の大学という建付けでやる以上、地域づくりの核となるような大学です。キャンパスも、どこが大学でどこがまちか分からないぐらいのフラットな、まちづくり、地域づくりの核となるような、そういう位置づけであってほしいと思います。

	大学の細かいことは分かりませんが、公教育、防災、子育て、地域の行事などいろんな面にこの大学が参画をしてくれて、これから生まれてくる子供たちが、このまちに夢を持てるような、そんなまちづくりの核となる大学にならないかと思っています。多分、このままいけば、夢や希望は持ちにくくなるでしょうし、ほとんどの若い人たちは出ていくと思っています。辛うじて大学があれば、大学を卒業した後も、このまちに住み続ける可能性が高いのではないかなと。そのような一縷（いちる）の希望を持っています。
座 長	委員の意見も受けた上で、意見を頂けたらと思いますが、いかがでしょうか。時間が迫ってまいりました。もうお一方、発言頂きたいと思います。
E委員	今までの話を聞いていて、また、この報告書を見て、そもそも大学の価値というのはどういうものか考える良い機会となりました。また、公立大学に限らず、大学がその地域にあるというのは、やはり重要だなと思直しました。 この検討会議のスケジュールを見ると、第3回には経済波及効果についても触れられているということで、もし外部から学生が来れば、いろいろなものを買いますし、下宿に住まうことになれば、下宿する宿が必要です。これらは全て経済効果が上がる要因となります。ただし、財務的な効果だけではなく、まちに若者が歩いているだけで、そのまちが活性化するという話もあり、これらは財務的には測ることができない効果ではないでしょうか。そういうことが実現すれば、ある程度、理想的な結論に結びつくのではないかと思います。 ただし、そのためには、いろいろな課題は多いと思っており、今回、この報告書を見て、当面は定員充足率 100%でシミュレーションをしていますが、本当にそれが実現するのか、なかなか難しい部分であると思います。 また、一般論ですが、私立大学から、財政的に厳しくて公立化した大学があり、当初は学費が安くなるということで受験者が増えるのですが、魅力的な大学でなければ、徐々に学生数は減っていきます。結局は、元のようにになってしまうという結論もあるので、そこは慎重に、どういうことをやっていくのかというところを検討しなければいけないと思います。 そう考えると、大学の運営というのが大事です。さらに、大学運営と同時に、教学をどうするかというのが問われます。今回の報告書の中で、1学部1学科を設置する、社会情報学部、社会情報科学科、文理融合などいろいろなキーワードが出ていますが、皆さんの話にあるように、ピンとこない部分があり、本当に地域に貢献するものになっているのか分からない。それは今後、積み上げて築き上げるという意見もあるかと思いますが、この4回の会議の中で、もう少し詰めていけたらよいと思っており、もし可能であれば、（市に大学構想を提案した）立初財団の方に来ていただいて、教学関連に関して、どういう大学をあなたたちは目指しているのか。というところを聞いてみたいというのが、この報告書を拝読しての感想です。
座 長	ありがとうございました。私も似たような感想を持っていて、直接話を伺いたいというところがあります。 今回のように提案を受けて、大学を作ってください。というより、市民の方々と議論し

	ながら一緒に作っていくというイメージのほうが良いのではないかと思います。厳しい意見とか現実的な指摘などをやりとりして進めていく方が、地域の人にとっては、安心材料が増えると思います。 とりまとめをする市役所の職員さんには負担になるかもしれませんが、大学が来ました。はいどうぞ。というのが、成功する時代ではないと思います。 皆さんでつくるものだと思いますし、逆にみんなでつくるということは、この田辺、熊野、信仰のストーリーを持っている魅力のあるまち、そこではこんなふうに大学をつくって、こんなまちになったという実例を示すビッグチャレンジにもなり得るような気がします。あくまで可能性があるということです。 最後に一つだけ口幅ったいことを言いますが、もしかしたら、私のいる学部がライバルかもしれません。近いし、まちづくりに特化しているし、自分が勤めている、仕事をしていることが対抗馬になってはいけないですが、お互いに切磋琢磨できるといいなと、そういう印象を持ちました。それは本当に私個人の意見です。
A委員	同じフィールドで座長自身、例えば大学ができれば教えたいと思われませんか。
座 長	個人的には、雇っていただけるのであれば。 C委員、教員集めという意味ではいかがでしょうか。
C委員	市民の方とつくり上げていくプロセスは極めて重要だと思いますが、教育の理念や基本的な骨格の部分について、もう少し明確な差別化要因は何なのかという点をはっきりしないと、無理だと思います。 教員を集めるのも、データサイエンス系の教員は今集まらないです。全国で引く手あまたです。どういう教育のスタンスで、どういう教員の人たちを求めるのか、もう少し明確にしないといけないと思います。データサイエンス系のことや、A I とかデザインとかいろいろ書いていますが、教員は集まりません。国立大学でさえ、教員集めに苦労しています。そういう現実も踏まえた上での計画をしていかないと難しいと感じています。
座 長	ありがとうございます。私の大学もこの4月にデータサイエンス学部をオープンしてしまいました。教員は過当競争ということですね。 本当に時間が来てしまいましたが、その他議題ということですが、特に何かございますか。事務局からはこのほか何かございますか。
事務局	事務局から1点、財団から直接、話を伺いたいというご意見について、事務局のほうで一度検討させていただきます。
座 長	ありがとうございます。是非、方法を考えていただきたいと思います。 議題はこれで全て終了となりましたので事務局にお返しします。
事務局	本日の議事については全て終了いたしました。これをもちまして、第1回検討会議を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。 【終了】